

『沖繩芸術の科学』第三十二号（二〇二〇年三月）別刷

【資料紹介】 沖永良部島に伝承される組踊
高平良（萬歳仇討ち）

鈴木耕太

【資料紹介】 沖永良部島に伝承される組踊

タカテラ

高平良 (萬歳仇討ち)

鈴木耕太

【下書き】

【口詞】

【現代語訳】

第一場

謝名ぬ子、「大主手事」で下手より出

て中央、舞台の前方に来て唱える。

謝名ぬ子

我身や大謝名ぬ比屋嫡子、謝名ぬ子。

我身ぬ父親や闇討ちに殺さりてい。

朝夕忘りらぬ親ぬ敵仇。

討たんでゆうとう思てい寝る目む寝らん。

夜々毎に忍でい一人思ゆしは、

仇は用心怠たるな。

夜廻い常燈ち明かち居りば、

御屋敷に忍び入る事や

我身一人が働ちしは、力ぬ及ばらぬ。

弟章雲や、

普天間法印ぬ弟子になちあていむ

私は大謝名の比屋の長男、謝名の子である。

私の父親は闇討ちに遭い、殺されてしまった。

朝夕も忘れることのできぬ親の敵を

討とうと思つて、一睡もできない。

夜ごとに敵の家を忍んで行つて一人で思うのは

敵は用心を怠らない。

夜の警備に、夜中明かりを灯しているので、

仇のお屋敷に忍び入ることは

私一人の働きでは及ばず、とても叶わない。

弟の章雲は、

普天間法印の弟子になつていて

章雲が上手から登場。舞台上手側で謝名の子と対面して唱える。そのまま同じ場所でも問答が続く。

親め事や互に打ち忘れ、
仇ゆ討たに。

ヤーヤ章雲、ヤー章雲。

章雲

ホーオ

何ぬゆぶ方ぬ、う尋ねがみせる。

謝名ぬ子

此の事どうやゆる。

至極差ち詰てい、うる事ぬあていどう

探てい來ちやる。

章雲

ホーオ、

何事も急じ語ていたはり。

謝名ぬ子

此の事どうやゆる。

朝夕忘れらぬ親め敵仇

討たんでゆうとう思てい寝る目む寝らん。

親のことをお互いに忘れて
仇を討とう。

やあ、章雲、やあ章雲よ。

はい。

はい。

なぜ夜遅くに、なんのお尋ねでしょうか。

この事である。

とても差し迫っている事があるからこそ

探してやってきたのだ。

はい。

はい。

何事でも、急いで話して下さい。

この事である。

この事である。

朝夕も忘れられない親の仇を

討とうと思つて一睡もできない。

夜々毎ゆぐごとくに忍しのんで一人思ひとりおもうゆしや、

仇かたは用心よちじんく怠たたらん。

夜廻よまわ常燈じょうとうちち明あかち居ゐりば、

う屋敷やしきに忍しのび入いる事ことや、

我わん一人ひとりが働いちしや

力ちから及およばらん。

弟章おとうしやう雲うんは

普ふ天てん間ま法ほう印いんぬ 弟で子しになちあていん、

出家しゅつげ長袖ながそでになちあていん、

親おやぬ事ことや互たがひに立たち戻もどりてい

談だん合ごうゆしらに。

章雲

ホーオ

親おやぬ事ことやりや誇からしやどうやしが、

長袖ながそでになとうぬ我わんと引ひち連ちりてい

仇かた討うちち取とりゆし、武ぶ士しぬ身みぬ名な折せい

他ほかに物もの笑わぬ あらわちやすが。

夜よごとごとに忍しのんで一人思ひとりおもううことは、

仇かたは用心よちじんくを怠たるな。

警備けいびと夜よに明あかりを灯あけし続つけているので

お屋敷やしきに忍しのんで侵しん入りすることは

私わが一人ひとりの働いきでは

力ちからが及およばない。

弟おとうの章しやう雲うんは

普ふ天てん間ま法ほう印いんの弟で子しになつていて

出家しゅつげをし、僧そうになつている。

親おやの事ことなので、お互たがひいに家いへに帰かえつて

話わし合あいをしよう。

はい。

親おやの事ことであれば、喜よろこばしい事ことであるが、

僧そうの身み分ぶんである私わがを連つれ立たつて

仇かたを討うちつというののは、武ぶ士しの名なに恥はじる。

他ほか人に笑わられる事ことがあつたらどうしようか。

謝名ぬ子

ヤー章雲、だによ聞ちちみり、

先づ父母恩重経にも、

父母ぬ恩討論するに、

高天計れなし、旻天極りなし。

親ぬ恩忘れてい 出家とうげる

仏ぬ道は又あらむ。

他雇てい 仇討ち取ゆし

武士ぬ身ぬ名折い。

黒染みぬ長袖になちあていむ

兄弟やあらに。

又仇見残し、後指さざりていや

此ぬ天ぬ下に敵とうむるとうむに

生きち居りならむ、

とうとう急じ 思い切ばみり。

章雲

なまぬい言葉や 許ちたぼり。

やあ章雲、よく聞けよ。

まず、父母恩重経にも

父母から受けた恩を例えるには、

空の高さは数えられず、秋の空は限りなく広い

そのような親の恩を忘れて、出家をする

仏の道というものはないだろう。

他人を雇って、仇を討ち取ると

武士の名折れである。

僧の身分になっても

兄弟ではないか。

また、仇を見過こし、後ろ指を指されては

同じ天の下で仇と一緒に

生きておくことはできない。

さあさあ、急いで思い切れ。

今の申し出をお許し下さい。

「切ばみり」で見得を切る。

「討たんしむぬ」で見得を切る。

親ぬ事やりや 互に立ち戻てい
仇ゆ討たに。

謝名ぬ子

ホーオ

今ぬ事言うしどう 親ぬ孝ぬ道やゆる。

高平良御鎖や

時得たる勢い者やりば、

自由に討ち取ゆる敵や又あらん。

忍ぶ網笠に深く顔かくち

袋かたみ、棒と太刀しくでいからや、

ふぬ二・三十日中に 討たんしむぬ。

章雲

ホーオ

今ぬ計らい事やりや 敵討ち取ゆし

十日までいや待たん。

謝名ぬ子

とうとう急がー急が。

親の事であれば、一緒に家に立ち返り、
仇を討ちましよう。

おお。

今の申し出こそ、親孝行である。

高平良御鎖は

時代を味方にした勢いのある者であれば

簡単に討ち取る敵ではない。

編笠に顔を深く隠し、人目を忍んで

袋を担いで、棒に刀を仕込んで仕込み杖にして

この二・三十日のうちに、仇を討とう。

はい。

今の計画であれば、仇を討ち取るのは

十日までかかりません。

さあさあ、急ごう、急ごう。

兄弟、舞台下手に入る

第二場

三線の音楽につれて上手より高平良一行が出る。高平良はそのまま舞台中央へ、高平良の子以下は上手で下手側を正面にして座る。

章雲

とうとう急じうつつ立たに。

高平良

出うちやる者や 高平良御鎖。

ホーオ

無情ぬ世ぬ中や水ぬ泡心。

とうりてい自由ならぬ露ぬ身どうやゆる。

誰が厄がやゆら、

昨日今日、二日打ち続き、

鳩ぬ飛び入やり、仏壇に居ちうたん。

今日妻子肝心砕ち驚ちどうみせる。

山鳥ぬ入りば、浜下りぬ浮世習わし、

ヤー供ぬ達。

我ん村ゆ出じてい 急じ宿ゆ借りらわむ。

我がなどうは言るな。

ただ首里方の う慰みち言より。

仇持つちやい居る身ぬ用心どうやゆる。

さあざあ、急いで出立しよう。

まかり出た者は高平良御鎖。

ああ、

世の中は無情で、水面の泡のように儂い。

思い通りにならず露のような儂い身である。

誰の厄であろうか。

昨日、今日と二日も続いて

野鳩が我が家の仏壇に入り込んで来た。

今日は妻子が肝をつぶすほど驚いている。

鳥が家に入ると浜下りで厄払いをする習わし。

おい、供の者たちよ。

私の村を出て、急いで宿を借りるのだ。

私の名を言うでないぞ。

ただ、首里の方の慰めで来たと言いなさい。

仇を持っている身の用心である。

第三場

「拝留みやびてい」が唱え終わると高

平良一行は舞台を時計回りに廻り、上

手に一列にならんで着座。

供二人は舞台上手に入る。

高平良の唱えが終わり、女たちは七尺節につれて、かせかけを踊る。

ヤー供ぬ達。

供

拝留みやびてい。

供 (一)

天気晴々と浜下りぬ日和

家族引き連りてい浜下りに行ちゆん。

高平良

ヤー供ぬ達、

今日小湾浜んかい 今どう着ちやる。

ヤー供ぬ達 踊りー踊り。

一、かせかけ

1. 七読みと二十読 総掛けて置きよて

里が蜻蛉羽 御衣よすらね

2. 枠ぬ糸総に 繰り返し返し

掛きてい面影ぬ勝てい立ちゆさ

サユヨンナ

おい、供の者たちよ。

かしこまりました。

良い天気であり浜下り日和である

家族を引きつれて浜下りに行くのだ。

おい、供の者たちよ。

今日、小湾の浜に、今ちょうどついた。

さあ、供の者たちよ、踊りなさい、踊りなさい

七読み二十読みという細かな糸で総を掛けて

あのお方の薄くて軽い着物を作りましょう。

枠の糸を総に繰り返し、繰り返し

掛けると、貴方の姿がしきりに浮かんでくる。

第四場

(海あそび) 高平良一行、上手退場

第五場

兄弟が下手より出る。下手より出ながら謝名の子の唱え。

老人、上手から出る。舞台中央で兄弟に向かって唱える。

3. 総かきて伽やならぬむんさらみ

繰り返し返し思どう勝しゆる

サユヨンナ

高平良

ホーオ 出来たー 出来た。

とうとう良いむぬゆ思出ちやむ、

ゆらてい石なごゆ取てい遊び。

謝名ぬ子

ヤー章雲

母親む拜でい 思い残す事あらむ。

さあさ急じ打つ立たに。

章雲

とうとう 急がー急が。

道行老人

ヤーヤ万才、

我んや首里方ぬ者よ。

今日や高平良御鎖ぬ、小湾浜下りゆうやりや、

総をかけても慰めにはならないものです

繰り返し掛ける程に、思いは増すばかりです。

おお、でかした。

さあさあ、良い事を思いついたぞ。

寄り集まつて、小石拾いをして遊びなさい。

やあ、章雲。

母親にもお目にかかって、思い残す事はない。

さあさあ、急いで出立しよう。

さあさあ、急ごう急ごう。

おいおい、万才。

私は首里の者である。

今日は高平良御鎖の、小湾の浜で浜下りがある。

正面に向き、兄弟二人で唱える。

老人は下手に入る

兄弟は舞台を回りながら次の唱えをする。

踊まわいしべーチンぬ あんていんに言いいあい、

見物けんぶつに行いちゆん。

道みち知らん我わんむ 寄ゆせてい呉くいり。

兄弟

くまからしつし村むらんかい勢じ理り客きゃくかい

大道うみちどうやゆる真ま直ちく御ご通といみそり。

道行老人

心得うぐれていどうやゆる、先まず急いじ行いかに。

謝名ぬ子

あー願ねがたこと叶かてい神かみぬ引ひ合あひしに、

今いまぬ告つげやりや油ゆ断だんしやならぬ。

とうとう急いじ行いかに。

章雲

今日けふ討うたぬ仇かた、いつし討うちゆが。

さーさ 急いじ通とら。

謝名ぬ子

やー章しょう雲うんよ、

踊りがあると役人が言っていたので

見物に行くのだ。

道を知らないので、私に教えてくれないか。

ここから、末吉村、勢理客村までは

大通りです。まっすぐお通りください。

よくわかった。まず、急いで行こう。

ああ、願った事が叶い、神のお導きには

今のような話であれば油断はならない。

とうとう、急いで行こうか。

章雲

仇を今日討たずに、いつ討つのか。

さあさあ、急いで通ろう。

やあ、章雲よ。

第六場

物思ふ色や外に表わすな、
互に見合わちどう敵にかから。

章雲

油断さぬぐとくに 物思ちみてい。

ありあり幕や棧敷うち廻ち慰みぬ最中。

謝名ぬ子

ヤー章雲よ。

万才こうし 御目かきてい

我肝う上げていどう討たんしむぬ。

供 (二)

海風ぬ涼さー、

石ナゴゆ取てい 遊でいちやーびたん。

いっペーみじらさあやびたん

供 (一)

ヤーヤ万才

くまや 高平良……

あい。御鎖やあらん。

考える事は顔色にでるので、決して表すな。
お互いに見合わせて、仇にかからう。

油断しないように、心をしっかり持って。

あれあれ、幕や棧敷を作って、慰めの最中だ。

やあ、章雲よ。

「万才こうし」を披露して

我が心を盛り上げてこそ、仇を討とう。

海風の涼しさよ、

小石拾いをして、遊んで帰ってきました。

とても珍しい事でした。

おいおい、万才。

ここは高平良……

あつ、御鎖ではない。

(センスル節) パツパカく馬が走つて登場。京太郎二人の踊り

子供は供に向かつて唱える

兄弟の踊。兄弟で棒万才を踊る。

首里方ぬ歴々ぬ う慰みどうやゆる。

とうとう村んかい行きやれ。

京太郎

うーカーしゃばかり。

したりがつおんくーやーつおんくー

謝名ぬ子

ふぬ二人や京太郎頭どうやゆる。

う慰み事やりや、う目覚ししやーぶら。

高平良の子供

ヤー供ぬ達、う目覚みぬあらば、

呼でい踊らしようり。

供 (二)

拝留やびてい。

ヤー万才 踊りー踊り。

高平良の子供

ヤー出来ったー出来た。

首里のお偉方のお慰めである。

さあさあ、村の方へ行くのだ。

おかしいばかりである。

やつたぞチヨンチヨン、やあチヨンチヨン

この二人は京太郎の頭である。

お慰めであれば、芸能で花を添えましょう。

おい、供の者たちよ、花を添えるのであれば

呼んで踊らせなさい。

かしこまりました。

やあ、万才。踊れ、踊れ。

おお。でかした、でかした。

高平良、真鍋樽に向かつて唱える

高平良

つめてい踊らしようり。

ヤー真鍋樽。

夜む暮りていうりや、くまうていやすまん。

急じ宿戻てい待てい。

供と女たちは高平良の唱えのあと上手

より退場。

京太郎、下手より出て、舞台中央で踊

る。

第七場

兄弟、棒万才を踊り、刀を抜いて唱える

謝名ぬ子

我身や大謝名ぬ比屋嫡子。大謝名ぬ子。

我が親ぬ仇今日どう討ちゆる。

章雲

次男、普天間ぬ章雲坊ゆ。

謝名ぬ子

ヤー章雲、仇討ち取たる今日や、

過ぎし父親む草葉ぬ陰で喜びめしやる。

さらに踊らせなさい。

やあ、真鍋樽よ。

日も暮れているから、ここにはいけない。

急いで宿に戻って待ちなさい。

わたしも暫くしてから帰るので。

このような物をお目掛けました。

おほいはいはい。

私は大謝名の比屋の長男、大謝名の子

我が親の仇を今日こそ討つのだ。

次男の普天間の章雲坊である。

やあ、章雲よ。仇を討ち取った今日は

亡くなった父親も草葉の陰で喜んでおられる。

刀を置き、最後に兄弟で踊る。

章雲

仇討ち取たる今日ぬ誇らしやや、
急じ立ち戻てい母に語ら。

謝名ぬ子

刀や棒杖 納めやい踊てい戻ら。

万才ぬ戻い（ゆしやいのう節）

一、仇討ち取たるな アスリ今日ぬ誇らしやや
しやんとう しやーりやゆうしやいな
二、敵し敵討ちやぬな アスリ腕しや見せる
しやんとう しやーりやゆうしやいな

仇を討ち取った今日の喜びは

急いで家に戻って、母親に申し上げます。

刀は棒に戻して、踊って戻ろう。

仇を討ち取った、今日の喜びは、

しやんとしやんとゆうしやいなー

仇を討ち取った腕こそ見せる

しやんとしやんとゆうしやいなー

